

開催日時	平成 28 年 11 月 14 日（月） 18：30～20：00
開催場所	釧路市役所 議場
参加人数	9 人
出席議員	<p>月田光明 議長</p> <p>三木 均 議員（議会運営委員会委員、民生福祉常任委員会委員）</p> <p>草島守之 議員（総務文教常任委員会委員、石炭対策・関連エネルギー調査特別委員会委員）</p> <p>戸田 悟 議員（経済建設常任委員会委員、都心部市街地整備特別委員会副委員長）</p> <p>金安潤子 議員（議会広報特別委員会委員長：司会）</p>
質疑応答の内容	<p>問：石炭火力発電所で使用する石炭は、釧路コールマインの産出量で足りるのか。石炭灰の処理について地域住民に対して説明しているのか。火力発電所はいつ頃稼働するのか。</p> <p>草島：使用する石炭は釧路コールマインの年間産出量の半分程度を目標としている。石炭灰については既に地域住民に対する説明等をしているところだが、全体的に周知されていないというご意見もあるので、今後連合町内会や単位町内会の総会など機会があるごとに説明させていただくことを担当部でも考えている。火力発電所の稼働時期については、現在北海道で実施している環境アセスメントが来年3月いっぱいをめどに終了する予定であり、その数値と作業手順の了解を得た後に基礎工事等に入り、平成31年度中の本格稼働を前提に作業を進めている。</p> <p>問：駅前地区の活性化について、既存のビルをどうするという考えはあるのか。</p> <p>戸田：個々の問題については市側で体制や考え方を固めた段階で駅前地区の方々と協議するのが基本だが、協議した結果、民間の方々にどのように協力していただくかが重要となる。行政は国や道と連携しながら、市民の税金を最大限活用しどのように将来の世代に継承できるかを、市民の皆さんの力を借りながら進めていく必要がある。</p>

問：釧路には若者が働く場がなく、学校を卒業したら市外に出て行ってしまいうので、大きな事業や工場を持ってくることができないか。

草島：若年層の人口流出が一番の問題ということは釧路市も議会も認識を同じくしているところである。地元で学んだ学生がなぜ定着しないのか、あるいは子どもたちが札幌や中央の大学や専門学校に行ってなぜ戻ってこないのか、それには市内に働ける場がないわけではないが選択の幅が狭いという問題がある。若年層の定着を目指し、基幹産業に関連する産業を充実・拡大し、雇用の場となる地元の産業を創出するという計画のもと、今年度から本格的に事業がスタートしており、釧路市と議会も創意工夫をしながら全力を挙げて取り組んでいるので、もう少し見守ってほしい。

戸田：企業誘致は簡単ではないが、今は大学が民間企業などと連携して学生が起業することを模索している。また、釧路市ではUIJターンを最大限活用して若者が地元に戻ってくるという方法論を確立してきており、住む場所などの環境整備を各所管課が協議しながら進めている。起業家を育てていく取り組みも実施しており、若い人が起業を希望する場合、専門家がアドバイスをを行い、資金調達の際の利子を釧路市が3年間助成したり、経営に関するいろいろなサポートをしている。障がい者の就労も重要になってきており、何か事業を動かすときには常に雇用という考え方を持って行政も議会も進めている。

問：今の市立病院は、患者が内科にかかっていた場合、同じ院内で外科にかかることができない。また、退院すると病院を変えてくれと言われる。小さい個人病院に行くより大きな専門病院で診てもらいたいという気持ちがあるが、初めて行くときはお金がかかる。これで釧路市民の病院、地域の総合病院としての機能・役割を果たすことができるのか。

三木：現在釧路市の高齢化率は30%を超えており、2025年には団塊の世代が75歳を迎え、ますます医療費が増える中で医療サー

ビスを充実していかなければならない。今までは病院完治主義
といって、入院してそこで完全に治して出て行くという形であ
ったが、それでは高齢化が進行していく中で維持できないとい
うことで、今は重病のところだけは拠点病院である市立病院で
回復を図って、その後は地域の医療・サポート体制を受けなが
ら治していく、地域完結主義という枠組みになっている。市立
病院は其中で高度急性期といって、重病者、災害時の救急救
命、精神病床に特化して、釧路・根室地方の拠点病院としてこ
れからやっていく。これは国の方針であり、これに沿って病院
を整備している状況である。我々も切実な問題だと思ってい
るが、これは制度上の問題なので、改善に向けての意見というの
は言えないのが現状である。

問：10年前までは企業の事業所がたくさんあったがなぜなくなっ
てしまったのか。

戸田：帯広市が鉄道高架化したことで一気に事業所が動いた。ま
た、リーマンショックなどの影響による経済状況の悪化により、
企業が事業所を縮小したことも要因である。しかし、日銀は釧
路市を道東の拠点都市と認識し支店を残したし、高速道路が釧
路市まで開通したことで、帯広市も釧路市と連携したいという
考え方になってきている。釧路市がしっかりと先を見通したま
ちづくりをしていけば自然とそういった動きになってくるし、
出先機関も釧路市に戻る動きが出てくると考えている。

問：新図書館の賃料について、私は何となく決まったような印象
を持った。図書館問題はこれまでかなり検討されていて、私も
ずっと傍聴しているが、賃料はもっと安くできる方法があった
のではないか。

草島：さまざまな議論はあったが、最終的に委員会と本会議にお
いて賛成多数という形で決められたもので、わからないうちに
決まったわけではない。建設費の増額については委員会と本会
議でそれぞれ指摘があったが、釧路市からは人件費や資材費が
年々上昇傾向にあり1年前より高額になったとの説明であっ

た。委員会の中では疑問の声もあったが、数字に対する細かい議論に行き着くことができず、最終的には行政の意見に傾くこととなったが、決して何もなかったわけではなくかなり厳しい指摘があったことはご理解いただきたい。

問：洪水ハザードマップについて、津波問題とどのように関連しているのか。洪水と津波は関連づけて考えた方がよいのではないか。

草島：洪水と津波は別々のハザードマップになる。津波ハザードマップは既に市民に配布しているが、これから国の新たな基準が示されるので、それを受けて今後さらに新しいものが出される。水害については今回の台風被害を含めて国の水害に対する被害想定基準が上がり、それに伴う浸水想定区域の見直しなど、今後新たな水害についてのハザードマップの作成を進めることになっており、近々市民の皆さんにも明らかにすることができると思う。津波被害についても満潮のときどうなのか、雨が降っているときどうなのかという議論もあったが、そこまで視点を広げていくと取りまとめが難しいので、一定程度の基準でハザードマップを作成している。今ご指摘があったことはおっしゃるとおりだと思う。水害が重なった場合における状況の推測とそれに伴う避難のあり方も今後考えていきたい。

問：鉄道高架化には多額のお金がかかるが、議会の中でどのような議論をしているのか。

戸田：賛否両論があるが、「釧路駅周辺まちづくり検討委員会」という有識者会議において主に防災の観点から検討がされ、その答申を受けて高架化という方針になった。しかし、これは釧路市だけでできることではなく、JRの意見も聞かなければならないし、国や北海道との連携のもとでしっかりと考え方をまとめて取り組んでいかなければならない。また、駅前地区整備、立地適正化計画、公共交通網形成などの都市機能の整備のみならず、観光振興ビジョン、観光立国ショーケース、阿寒の国立公園満喫プロジェクト、ひがし北海道広域観光周遊ルート、水

	<p>のカムイ観光圏といった観光や環境分野など、あらゆるまちづくり施策と連動しながら将来を見通して進める必要がある。</p> <p>問：新図書館が民間ビルに入居することが議会で通ったことに不満を持っている。入居が決まったのは仕方がないとしても賃料をもっと安くできなかったのか、どのように交渉したのか詳しく聞きたい。これから人口が減少し税収も少なくなっていく中で賃料を払い続けることができるのか。青森市では図書館が入居していた商業ビルが破綻した。残された人たちにツケを回すような気がするが皆さんの考えを聞きたい。</p> <p>草島：月額1,424万円、年間約1億7,000万円という賃料は釧路市が札幌市の不動産鑑定士に依頼してさまざまな環境を想定して提示した金額である。この件に関する専門の不動産鑑定士が釧路市にはおらず、札幌市の事業者がこれまでの実績や経験から適格であるという釧路市の説明であった。信用できるか疑問の声もあったが、道内でも初めての算定ケースでもあり、交渉で減額できないか委員会の中でも釧路市に強く伝えた。その結果出てきた賃料については減額幅が小さいという意見もあったが、釧路市からは適正な数字との説明があり、10月に賃貸借契約が締結された。</p> <p>問：議決をとらないで入居が決まったと思うが。</p> <p>草島：入居については委員会と本会議で賛成多数をもって了解した。賃料は12月議会でこの契約を締結した結果が出てくるのでそれを踏まえた議論はあるかと思うが、段階的な手順は踏んでいるのでご理解いただきたい。</p>
<p>議会への 意見・要望</p>	<p>問：委員会の意見交換会などで聞いた意見や、他都市先進事例を視察した結果を、議会活動にどのように活用しているのか。</p> <p>三木：意見は本会議や委員会における質問に生かしているほか、視察等の出張報告書はインターネット上で公表し、その中で提案すべき事項については議会における質問の中に取り入れている。</p>

開催日時	平成 28 年 11 月 15 日（火）18：00～19：30
開催場所	コアかがやき（研修室兼学習室）
参加人数	11 人
出席議員	畑中優周 副議長（石炭対策・関連エネルギー調査特別委員会委員） 梅津則行 議員（議会運営委員会委員、民生福祉常任委員会委員長） 村上和繁 議員（総務文教常任委員会委員会副委員長、議会広報特別委員会委員：司会） 酒巻勝美 議員（経済建設常任委員会委員） 渡辺慶藏 議員（都心部市街地整備特別委員会委員長）
質疑応答の内容	<p>意見：富貴紙の質問は、大変よい質問であったが、答弁で蔭の皮だけで作られているような説明があった。全て蔭で作られていないと思うので説明する際は注意したほうがよいのではないか。</p> <p>酒巻：蔭の繊維だけでできているとは説明していないが、今後の参考としてお聞きしたい。</p> <p>問：公営住宅の空き家が目立つ。美原地域ではピーク時で 12,000 人ほどいたが、現在は 8,000 人を割っている。地域の活性化や市有財産の有効活用の面からも、公営住宅をもっと活用すべきではないか。</p> <p>酒巻：市営住宅の空き家については、現在、戸数管理をしながら計画的に補修を進めている。また一方で、希望しても入居できない人もいて、公募の方法等を改善するなどして進めている。予算の関係もあるが、そういった意見があったことを受け止め、引き続き議会で議論していきたい。</p> <p>問：3 市町が合併し 10 年以上経過するが、合併当時に描いたまちづくりに対する評価と反省を、議会としてもしっかりと検証してもらいたい。音別町が取り残されているようにも感じる。</p> <p>村上：合併後の検証については、行政側で合併後 5 年、10 年の節目で 2 度行っている。合併時の約束事項は概ね進んでいるが、音別地区も阿寒地区も人口減少が進んでいる状況である。議会</p>

<p>としても3市町バランスのとれた発展に向け努力したい。</p>
<p>問：新観光振興ビジョンの話があったが、観光の面で音別地区の特産品や旧尺別炭鉱の遺産を活用できないか。</p> <p>酒巻：音別地区の特産品については地域振興の観点から議会で盛んに議論されている。引き続き地元の資源を活用できるように議論していきたい。</p>
<p>問：ハザードマップで10mの津波を想定しているが、20mの津波が発生する可能性もある。そうなればこの辺りも浸水するが避難場所はどうなるのか。</p> <p>村上：国から示される新たな津波の想定により、市のハザードマップを見直す予定であるが、まだ国から想定が示されていない。津波避難所については、民間ビルを一時避難所として契約するなど、避難人口に見合った内容で拡充を進めている。</p>
<p>問：新図書館の賃貸契約に関しては可決したのか。また賃料は年間どのくらいなのか。</p> <p>村上：昨年1月に民間ビルに入居するということで、内装は市で行うことになるので、その設計に係る予算を議決した。賃料は月額で約1,424万円、年額で約1億7,000万円。そして30年で約51億2,600万円である。</p> <p>問：その他に造作の費用がかかるということか。</p> <p>村上：造作費が約13億円である。</p> <p>問：そうすると30年で約64億円かかるということと理解した。今の図書館の規模で新たに建て直した場合はいくらかかるのか。</p> <p>村上：市が行った試算では、間借りした場合は約65億円、市独自で建設した場合は約71億円であった。</p> <p>問：今ある図書館と同規模での試算か。また今の図書館に加えて、何か機能が付加されているのか。</p> <p>村上：今度、図書館を作る場合は文学館を併設することになる。場所は市の中心部で、津波対策も必要になるという想定である。</p>

現在の図書館よりも広くなり、さらに文学館のスペースができる。

問：民間ビルの何階を借りることになるのか。

村上：3階から7階を借りることになる。

問：市の試算である71億円は市民に公表されているのか。

村上：市からは市民にもお知らせすると聞いている。

問：議員は自らの町内を歩いているのか。この付近の歩道は、いたるところにくぼみがあり、車道を歩かなければならない箇所もある。特に美原小学校の校門前の歩道が5cm以上掘れており、5～6年修復されていない。市の担当部署に告げて全市的に点検し修復してほしい。

酒巻：議員28名それぞれが議員活動などを通じて地域の状況を把握しているものと思っている。歩道の話であるが、予算があり優先順位を付けて取り組んでいるが、学校や医療施設などは優先されるべきなので、担当課にしっかり伝えたい。

問：市内のいじめ問題について、市教育委員会から発生件数などの報告を受けているのか。自殺に至る事例はないが、学校ごとにしっかり調査すべきである。

村上：市教育委員会からいじめに関する報告を受けている。大津のいじめ事件から法律が変わったことで、市もいじめ防止のための計画を作成する準備を進めているところである。また、議会でもいじめ問題については積極的に質問をしているところであり、引き続きしっかり取り組んでいきたい。

問：図書館やフィットネスセンターのプール、鉄道高架など市民の間で意見が割れる問題となる場合は、いつまでも議論し続け、決定できない状況がある。まちづくりの手法として、期限を決めて議論し決めるというルールをつくる必要があると考える。

畑中：釧路市を良くするために、こういった方法が最善なのかということを議員それぞれが考えや意見をぶつけ合って議論するのが議会である。ご理解いただきたい。

意見：釧路港を生かしたまちづくりとして、釧路地域に屠畜場の

	<p>設置を進めていくべきだと考える。</p>
議会への 意見・要望	<p>問：政党看板を公共用地に設置してはいけないとマスコミ等でも報道されている。昨年の議会報告会の場でも指摘し、改善すると答えていたが、今回の選挙においても公共の場に設置していた。また、障がい者就労支援事業所に政党看板の設置を委託した結果、公共用地に設置されていたケースも見受けられた。市民の見本となるのが議員でありルールを守ってほしい。</p> <p>畑中：正当な場所に看板を設置するよう議員が集まる場で確認し、正していきたい。</p> <p>酒巻：一部業者との確認違いがあり誤って設置した。ご理解いただきたい。</p> <p>村上：指摘は深く受けとめる。選挙のためやむを得ず設置したが、このことで厳しい指摘や批判をいただいている。今後重々検討していきたい。</p> <p>意見：検討ではなく、ダメなものはダメである。肝に銘じてほしい。</p> <p>問：議会報告会の参加者数が少ない。良い取り組みであり市民のためにもなると思うので、PRの方法を工夫すべきである。</p> <p>村上：周知方法については、公共施設にポスターを掲示したり連合町内会にチラシの配付を依頼したり、議員による声かけなどをして、参加を呼び掛けているが、結果について重く受け止めている。多くの人に集まってもらえるよう今後も努力していきたい。</p>
市への 意見・要望	<p>問：地区会館にあるバーベキューコンロを使用するために、市の公園緑地課に直接行って申請しなければならない。釧路町は電話連絡でよい。支所でも申請できるようにならないか。</p> <p>酒巻：施設を管理する面から、そういった対応をお願いしている。利便性の観点について意見があったことを持ち帰りたい。</p>

開催日時	平成 28 年 11 月 16 日（水）10：00～11：42
開催場所	釧路市男女平等参画センターふらっと
参加人数	19 人
出席議員	<p>月田光明 議長</p> <p>佐藤勝秋 議員（議会運営委員会委員、石炭対策・関連エネルギー調査特別委員会委員）</p> <p>金安潤子 議員（総務文教常任委員会委員）</p> <p>伊東尚悟 議員（経済建設常任委員会副委員長、議会広報特別委員会委員：司会）</p> <p>高橋一彦 議員（民生福祉常任委員会委員）</p> <p>森 豊 議員（都心部市街地整備特別委員会委員）</p>
質疑応答の内容	<p>問：病後児保育事業とはどのようなものか。</p> <p>高橋：感染症などの病気にかかった子どもは保育園に預かってもらえないが、両親共働き等で預け先が無い場合に利用してもらうために今年 4 月から開始した事業である。8 月末現在、23 人が登録したが 1 人の利用しかなく、どういう問題があるかが議論された。子どもを預かるとなると、アレルギーなどの問題もあり大変である。周知方法も含め、改善できることがあるのではないかと考えている。</p> <p>問：場所はどこにあるのか。</p> <p>高橋：共栄保育園 1 カ所で行っている。実施する園を増やせないか、利用に係る手続きが簡単にならないかについても検討していきたい。</p> <p>問：釧路市男女共同参画センターも再来年から指定管理者制度になる予定だが、選定にあたり、金額の安さだけでなく、いい仕事を市民へ提供してくれる事業者を選んでもらいたい。</p> <p>金安：これから検討することになるが、いただいた意見を活かして議論を進めていきたい。</p> <p>問：まちづくり基本条例の制定から 1 年経ったが、議会としての認識は市のステータスシンボルという位置付けか。それとも</p>

<p>市民が主役でまちづくりを進めたいという認識か。</p> <p>佐藤：ステータスシンボルというよりも、今後の市のまちづくりの根幹をしっかりと明示したものと認識している。まちづくりの主役は市民であり、市、市議会議員、市民それぞれの役割でまちづくりを進めていきたい。</p>
<p>問：阿寒湖畔と北大通は重点的にまちづくりをする地区と聞き、女性団体協議会で北大通の草取りをしているが、阿寒地区は草取りがきちんと入っているようだ。北大通も力を入れていくと聞いていたがどうなったのか。</p> <p>伊東：花壇の草取りが大変であること、北大通りをきれいにして観光客を出迎えたいということをしかり受け止め、取り組んでいきたい。</p>
<p>問：音別地区の富貴紙について、もっとPRしていくべきでないか。</p> <p>伊東：議会でも取り上げられているが、大量生産できないという現状の課題がある。音別地区の地域振興にもつながるため、引き続き取り組んでいきたい。</p>
<p>問：道内でも民生委員の不足が問題となっているが、釧路市の民生委員の活動は道内でもトップレベルにある。民生委員とのつながりはどうなっているか。</p> <p>高橋：なかなか民生委員のなり手がいないと聞いている。誰でもなれる訳でなく、住民のプライバシーの問題等もあり大変だが、これからどう対応していくか課題と考えている。</p>
<p>問：釧路に来た観光客の方から「釧路空港へ続く上り坂が汚く残念だった、気持ちよく釧路から帰りたい」と言われ残念に感じている。</p> <p>伊東：道道であり市の管轄ではないが、貴重な意見として承りたい。</p> <p>高橋：春には大楽毛よしの幼稚園で花壇づくりなどをしていると聞いている。</p>

	<p>問：火力発電所が 2019 年稼働開始と聞いているが、公害が発生して被害にあった時の補償を約束するために市と業者で誓約書に調印してほしい。</p> <p>伊東：貴重な意見として承る。</p> <p>問：町内会で避難訓練や勉強会を実施していることで地域住民の意識が高くなっているが、震災が起こったときに自力で避難できない方をどう避難させるか、一緒に避難するか、地域でどう支えていくか、また、ろうあ者への配慮も必要と考えるが、地域の高齢化も進み、町内会だけの取り組みには限界がある。また、学校などの体育館が避難所となることが多いと思うが、肢体不自由の方が使えるトイレが体育館近くに無いのではないか。震災が起こった時に町内会で避難所運営する力をつけるため、障がいのある方を含めた避難訓練の実施や、避難所で肢体不自由の方が利用できるトイレの問題などについて質疑してほしい。</p> <p>高橋：福祉避難所について、委員会等で議論していきたい。</p> <p>要望：市外に進学した女性からのお話で、釧路の企業には女性を活用する気がないからと釧路に戻らず市外で就職している例が多いと聞く。そのような視点からも女性登用について企業や経済界へ呼びかけを進めてほしい。</p> <p>金安：女性活躍推進法が施行されたことに伴う民間企業や市役所の女性雇用について、本会議等で質問してきたが、男女が住みやすいまちづくりに向けて女性の雇用が拡大するよう今後も取り組んでいきたい。</p>
<p>議会への 要望・意見</p>	<p>問：他都市で政務活動費が個人の生活に使われていると大々的に報道があったが、釧路市議会議員は生活費に使っていないか。</p> <p>佐藤：釧路市では月額 4 万円×人数×12 ヶ月分の政務活動費が会派へ支給される。金額や支出基準について条例で定められており、ご指摘のような使い方はできないようになっている。4 年にわたり実施した議会改革検討委員会において、市民の方々から疑念を持たれないよう透明化を図り、資料や領収書等全て公</p>

	<p>開しようとなった。市議会ホームページだけでなく、市役所1階の市政情報コーナーでも公開しており、情報公開請求せずにご覧いただける。</p> <p>問：白紙の領収書をもって自分で金額を記入しているという報道や、領収書に数字を書き加えていたという報道があったが、釧路市議会議員も数字を記入しているのではないか。</p> <p>佐藤：公開している領収書をぜひ見てほしい。会派の中でもチェックし、さらに議会事務局でも上期、下期の半期毎にチェックしており、白紙の領収書をもろうことや数字を加筆したりすることは絶対にならない。</p> <p>問：間違いないと証明できるのか。</p> <p>佐藤：いまここで証明することはできないが、チェックに際しては領収書と併せ業者からの請求書も添付しており、公開しているものをぜひ見てほしい。</p> <p>高橋：例えば研修に行く場合、報告書には航空券の半券、写真、名刺等も添付しており、二重、三重のチェック体制が整っている。理解してほしい。</p>
	<p>要望：昔は議員によってそれぞれの専門性があったが今は見えない。この分野はこの議員という専門性がほしい。</p> <p>佐藤：先輩議員の中には、福祉や経済などその分野への見識が深い方もいた。議員の得意分野は、それぞれ研鑽を積んだ結果である。市議みんなへ伝えていきたい。</p> <p>高橋：議員としても「特定の分野にだけ明るい」という訳にもいかず、オールマイティに対応していかなければならない。その点についてご理解いただきたい。</p>
<p>市への 要望・意見</p>	<p>要望：ハザードマップという言葉について、日本語表記もしてほしい。また、大きな災害が起きた場合、地域の人で避難所の運営をしなければならないが、ほとんどの市民は市職員に来てもらえると認識していると思う。その点についても住民に周知してほしい。</p> <p>金安：ハザードマップの日本語表記について、関係部署に申し伝</p>

	<p>える。</p> <p>高橋：避難所が開設されれば市からも職員が行くことになるが、災害はいつどんな状況で起こるかわからないため、基本的には地域、町内会が中心に進めていくことになる。その点について行政側へ報告させていただきたい。</p>
	<p>要望：男女共同参画について、学校教育で取り入れてほしい。</p> <p>金安：以前この件について、積極的という訳ではないが取り組んでいる、という答弁をもらった経緯がある。全くやっていないという訳ではないのだろうが、この意見を踏まえてこれからも働きかけたい。</p>

開催日時	平成 28 年 11 月 16 日（水） 18：00～19：30
開催場所	コア鳥取
参加人数	23 人
出席議員	<p>畑中優周 副議長</p> <p>松橋尚文 議員（議会運営委員会委員長、経済建設常任委員会委員、都心部市街地整備特別委員会委員）</p> <p>大越拓也 議員（総務文教常任委員会委員、議会広報特別委員会副委員長：司会）</p> <p>梅津則行 議員（民生福祉常任委員会委員長）</p> <p>続木敏博 議員（石炭対策・関連エネルギー調査特別委員会委員長）</p>
質疑応答の内容	<p>問：公園街路灯のLED化について、年間1,000万円程度の削減効果が見込まれる試算となっているが、今後、前向きに行っていくのか。自分の町内会もLED化して6年目になるが、当時、一度にLED化したので、5年間の保証期間が切れたとたんに電灯が切れ始めて、どうなるかと思っている。市の方でもまた大きなお金がかかることもあるかもしれないが、どのような状況となっているのか。</p> <p>松橋：これまでのLED灯は上から下を照らすタイプだったが、最近は製品開発が進みコーン型と言われる全方向型のものが販売されている。市内660基ある水銀灯を9年間かけて順次、交換・整備の際にLED化すると、最終的に工事費5,130万円含めて、600万円程度安くなる試算となっている。明るさについても春日公園とはまなす公園で、デモンストレーション・照度検査をし、問題ないというところまできている。</p> <p>問：先々週、浪花町で外から「大津波です」というアナウンスが聞こえたが、スマートフォンは鳴らず、何事かと思った。実は訓練ということがわかったが、鳥取地域も津波の際に浸水する地域であるので、携帯を持っていなかったり、ラジオを聞いていなかった時に、この地域でも外でアナウンスが流れるのか。</p> <p>大越：災害発生時は防災無線からアナウンスが流れるようになっているが、近年は建物の窓等がしっかりしており、音が届かな</p>

<p>いということがある。委員会でもそのような話が出ており、問題提起はしている。</p> <p>松橋：11月4日に全道で北海道シェイクアウトが実施されており、J-ALERTのテストも兼ねていた。広報くしろ11月号に小さく出ていたものの、訓練を実施することが事前にしっかり伝わっていない部分もあり、相当驚いた方が多かったと聞いている。総務文教常任委員会や議会の中で、広報のあり方等を検討してもらいたいと思っている。</p>
<p>問：国で洪水ハザードマップの見直しをやっているそうだが、市の対応はどうなっているのか。</p> <p>大越：国で検討されている津波被害の想定基準が間もなく出るところであり、それが出てから市のマップを作成することになる。</p>
<p>問：国の経費の無駄使いが報道されているが、市ではどうなのか。</p> <p>畑中：予算の中できちんと行われているかというチェックはしている。市役所でも行財政改革の中で、無駄な電気を消したり、無駄を省いていく方向になっている。市や議会も改革を行っているし、無駄な事業はないと思っている。</p> <p>梅津：決算委員会に委員として入っていたが、ちゃんと執行されているかどうかという審査をさせていただいた。蝦名市長も話している通り、平成27年度は大きな黒字を生み出し、財政調整基金に積み立てることができたが、ある意味、適切に執行され、市民の皆さんの協力のもとで成されたことと思う。一方、国の事業を市が行うもの、国から補助金がきて行う事業もあるが、決算委員会で一覧表を作らせたが、それを見る範囲では、適切に執行されていると思う。生活保護などは厚生労働省が国として釧路市のチェックを行っている。</p>
<p>要望：友人にひとり暮らしで非課税の方がいる。毎年7月にバス券やリフレ券をもらっているが、国民年金の月5万円くらいしか収入がなく、固定資産税や、国民健康保険料の支払いなど、やっとなでやっている。近くの銭湯の入浴券や、釧路町のように</p>

	<p>現金での支給となればいいと思っている。</p> <p>梅津：同じ要望は、いろいろな地域から受けており、議会の中でも何人かの議員が質問している。9月定例会中の民生福祉常任委員会で高齢者バス利用助成事業に関するアンケート調査の結果報告があり、タクシー券や近くの銭湯で使えるようにしてほしいとの要望が多いことが結果に現れている。また、無駄にならないようにしてほしいとの意見もあり、今後、市の方で来年度以降どうするか、いろいろな形で出されてくると思う。その一方で、北大通を中心とする中心市街地の活性化に向けて、今建設中の新図書館を含めて、たくさんの方に来ていただくために、バス券を活用するという観点もあり、さまざまな議論がされている。ひとり暮らしでいろいろ負担があるということは、身近な議員や、地域包括支援センターへも介護だけでなく、暮らしも含めた相談をしてもらえればと思う。民生委員の方も市へつなぐということをやっている。</p>
	<p>問：選挙のたびに投票率が低下しているが、問題があるか。</p> <p>大越：あるかないかであれば、問題あると思う。政治に関心がないなどさまざまな理由があると思う。誰に投票していいかわからないという方もいると思うが、まずは、投票所に行ってほしいということは、さまざまな選挙の場で、各議員も市民にお願いしているところである。先般の市長選挙では、若干であるがパーセントが上がった。</p>
	<p>問：市立の北陽高校があるが、議員からの言及が少ないと思う。市内の道立校と比べるとかわいそうで、施設の老朽化等があり、行かせたくないという親がいるようである。ぜひとも、釧路市が誇れるよう、長期に子どもたちを釧路の街で育てるという思いで、新しい北陽高校をつくる取り組みをお願いしたい。</p> <p>大越：委員会の方でもしっかりと取り組んでいきたい。</p>
<p>議会への 意見・要望</p>	<p>問：鳥取10号公園に政党・政治家の看板があったが、今は全くなかった。しかし、先の国政選挙で、公園にまた看板を立てた政党がある。議員であると同時に政党の人であるが、公共の場</p>

	<p>所に看板を立てるのは違法であり、どのように考えているのか。</p> <p>畑中：公共の場への看板の設置は禁止されているが、まだ設置されているということで、12月議会前に会派の代表者会議があるので、ご指摘いただいたことを取り上げ、早急に撤去するよう呼びかけたい。</p>
--	---

開催日時	平成 28 年 11 月 17 日（木） 18：00～19：25
開催場所	阿寒町公民館
参加人数	18 人
出席議員	<p>月田光明 議長</p> <p>鶴間秀典 議員（議会運営委員会委員、総務文教常任委員会委員）</p> <p>宮田 団 議員（経済建設常任委員会委員長）</p> <p>岡田 遼 議員（民生福祉常任委員会副委員長、議会広報特別委員会委員：司会）</p> <p>大澤恵介 議員（石炭対策・関連エネルギー調査特別委員会委員）</p> <p>伊東尚悟 議員（都心部市街地整備特別委員会委員）</p>
質疑応答の内容	<p>問：民生委員協力員制度の導入の質問があるが、民生委員の仕事はハードだと感じる。民生委員を支える仕組みについて考えたいとのことだが、何か具体的な取り組みは出ているのか。</p> <p>民生委員は厚生労働大臣の任命であり、国と市町村との関係はうまくいっているのか。</p> <p>岡田：民生福祉常任委員会では、民生委員を支える仕組みづくりをこれから考えていかなければならないという議論になっている。釧路市は民生委員の充足率が全道の中でも非常に高いが、成り手が不足しているのが現状である。若い方が民生委員を担ってもらおう仕組みを議論していきたい。また、委員会において民生委員との意見交換会を行って情報共有している。</p> <p>問：2 年位前に、阿寒湖畔でカジノ誘致の話があったがどのようになっているか。</p> <p>宮田：市の方針として、IR・カジノを推進するという方針は変わってはいないが、国の方針が決まっておらず、具体的な進展はない状況である。</p> <p>問：IRとは何であるか。地元の人には利用できるのか。</p> <p>宮田：市が想定しているのは、リゾート型のカジノである。地元の方の入場の問題などは議会の中でさまざま議論されている。</p> <p>大澤：IRはカジノを含む統合型リゾートであり、会議場や展示</p>

場など多くの人に集まっていたりするような総合的な施設のことである。IR推進法が国会超党派で検討されているが、実際には審議入りしておらず、審議がなければ国の法整備もできない。法整備の結果を受けて、釧路としてどのように進めていくかということになる。

問：10月28日に道東6市の町内会の大会の時に、新栄町では津波時に逃げる場所がない、高い建物が無いというような話があった。10mクラスの大きな津波のときはどうにもならないと思うが、市民に対しどのように答えるのか。

鶴間：津波の避難に関しては、揺れてから30分以内に逃げて下さいとなっており、車での避難も考えられている。一時避難所までは行けるという想定になっているが、冬期間や障がい者、高齢者の対応は厳しい。地域力で対応し防災力を高めてほしい。

問：各町内会は高齢者が多く一時避難で逃げようがない。

大澤：地域でいうと、新栄町は30分以内の避難であれば日赤病院や労災病院などがあり、災害時の協定を結んでいるので、病院の上階への避難は可能である。一番大事なのは命をしっかりと守るということであり、地区連では道営住宅や市営住宅にお住まいの住民と事前協議を行い、災害時には上層階の踊り場付近に一時的に避難させてもらうようにしている。地域力で対応しなければならぬ問題であり、自助、公助、共助の考え方のもと、高齢者のためにも共助の形を作っていきたい。町内会単体では難しいこともあり、小学校区内での避難ということも新たに検討されているところである。

問：町内会の班長は、加入者を何回も訪れなければならない。ボランティアでやってはいるが時間もかけてもらえない。阿寒地区、音別地区では加入率は高いが市部では特に関心がなく、時間はとれないと思う。さらに未加入者が町内会で買ったゴミ箱を使っているという事情もある。

岡田：委員会の中でも同様の話題が問題になっている。若い方たちの隣人との関係が希薄化している中で、どのように関心を持

っていただけるか、しっかりと考えて進めていきたい。

問：阿寒町の道の駅のリニューアルなど、いろいろな方策を行政は行っているが、平成8年に国際ツルセンターができて、観察センターの機能をツルセンターに移設するという話になっていたが、もう20年経つ。観光の拠点施設として、観察センターにツルをもう少し置くことも方法の一つだと思う。ツルのゲージは空いており、夏場は4～5羽しかいない中で、観光客を呼ぶといってもそれで良いのか。中身を充実したものにしてもらいたい。

鶴間：皆さんの思い入れはお伺いし存じている。観察センターの施設が古くなってきて改築するという議会質問もあった。冬に比べ餌付けもしていないので夏場のツルは少なく、来館者数に波があるのも存じている。しかし、一概に夏場にゲージを作って増やせば観光客が来るのかという疑問もある。類似施設として近隣に丹頂鶴自然公園もあり、市全体としては研究体制や治療体制も整っており、PRという方向で力を使っていったらどうかと思う。環境省が施設離散の方向を打ち出しており、餌付けも減額していくような形を追随するようになってきているが、阿寒地区で守られてきたものを維持できるよう努力していきたい。

問：観察センターも耐用年数が過ぎているのであれば、耐震基準による改修など、今後改築なり新築する考えは、我々が要望すれば出てくるかどうか。役目は終わったということになるか。

鶴間：市では公共施設を統合していくというような計画を進めているが、新しくするという地元の要望があれば、その心づもりでお伝えしていきたい。

問：耐用年数が過ぎたので、分館を本館に移すのは一つでないのか。無駄をなくすのであれば壊すべきでは。

鶴間：機能移転ということで承り、皆さんにご報告させていただく。

意見：愛護会に加入しているが、餌代が減らされている。生餌を

やっているのが特色である。それを買う餌代が増えない。そんな現状もあり、多くの方に入ってもらいたい。

問：オジロワシとタンチョウの餌の取り合いは、自然界ではありえない話である。取り合いになるのは自然の風景なのか。非常に疑問であり問題視している。もともとはタンチョウの危機を救うための給餌活動、タンパク質の補給である。自然の摂理の中で役目は終わったと言えると思う。

鶴間：ツルの繁殖については、育成の過程の段階で餌付けが必要であったため、自然なものではないと思う。観光にはプラスの面があり、繁殖の成功事例としていく流れにある。

問：阿寒川のハザードマップは作る予定があるか。

鶴間：阿寒川については北海道の管理となるが、浸水の予測についてはあった方が良くと思うので、議会でも気に留めたい。

問：阿寒町富士見の公住があるが、国道沿いの2階建ての公住前にバス停があって台風の時に飛んでしまった。富士見3丁目であるがバス停が欲しいと思って調べたら民間業者が作成したものでバス会社で作ってもらうのはどうしてよいかわからない。立派なものでなくていいから屋根だけあればよく、空き家の物置でもいいから持ってきてほしいがどうか。

高齢化社会の交通事故は全国で問題になっている。免許を離せない理由の一つに交通の便が悪いため、病院通いのために免許更新しているということがある。阿寒地区はバスを1本逃したら、次はいつ来るかわからないような状態だし、白糠と比べても料金が高いと思う。議会で話題にしてほしい。

岡田：議員の中で意見を共有し、そのような意見があったという事で今後の活動につなげていきたい。

月田：バス停そのものがないのか、小屋がないのか

意見：バス停ではなく、待機する小屋が欲しい。

問：図書館を都心部に置くことによって、活性化するというメリットがあるようだが、議会としては金銭的な面ではどうなのか。

	<p>鶴間：金銭的には北大通に3階以上3フロア5,000㎡で、他の物件同様に不動産鑑定を予め行ったところ、月額1,440万円程度であった。議会としては議決前に、自主建築したほうが良いのではないかと試算を出したが、今回の不動産鑑定額は高いという意見が多く、改めての算定結果が月額1,424万円となり、30年間で約6,000万円程の減額の賃料となったという経過である。</p> <p>議会を含めて利用者を増やす努力をしていきたい。</p>
	<p>問：釧路地区における町内会加入率が47パーセントということで、どんどん町内会がなくなっている。阿寒地区や音別地区では信じられないが、厳しい町内会の現状を認識しながら加入率上昇に協力願いたい。</p> <p>岡田：町内会の加入については毎回議論になっているが、平成27年6月議会で加入促進の検討や負担軽減を計画しているとの報告があった。</p>
<p>議会への 意見・要望</p>	<p>問：話が早くついていけない。事前に資料を配布いただけるとわかりやすい。</p> <p>岡田：パワーポイントの資料をお配りして、それに基づき説明しているが、広報委員として今後わかりやすく説明できるよう努めていきたい。</p>
<p>市への 意見・要望</p>	<p>問：この会場の駐車場が足りない。今まで何回も要望したが予算が見つからない。大きな行事があると公民館と行政センターの駐車場では不足することが多い。舗装しなくて良いので芝生部分を駐車場にしてもらいたい。</p> <p>岡田：ご意見として受けとめ、行政に申し伝えてまいりたい。</p>

開催日時	平成 28 年 11 月 17 日（木） 18 : 00～19 : 30
開催場所	音別町コミュニティセンター（研修室）
参加人数	8 人
出席議員	<p>畑中優周 副議長</p> <p>松尾和仁 議員（議会運営委員会副委員長、総務文教常任委員会委員、都心部市街地整備特別委員会委員）</p> <p>松永征明 議員（経済建設常任委員会委員）</p> <p>秋田慎一 議員（民生福祉常任委員会委員、石炭対策・関連エネルギー調査特別委員会委員）</p> <p>金安潤子 議員（議会広報特別委員会委員長：司会）</p>
質疑応答の内容	<p>問：音別地区は全地域で町内会があるが、釧路地区は加入率が低く 45.91%と全道で最下位であり、市長も苦慮している。議員の中にも町内会長になっている方も何人かおられるが、加入率を向上させるためにはどうすれば良いか聞きたい。地震・津波など災害の発生は、釧路市では避けられないこと。非常時には町内会などのお互いの助け合いが一番大切なことだと思うが、どう考えるか。</p> <p>秋田：私も釧路公立大学の隣の地域で町内会長をしている。マンション居住者は町内会に加入はしておらず、戸建てでも高齢世帯のため、回覧板を回すのがつらいなどの理由から町内会を辞めさせてほしいとの問い合わせもある。市長が先頭に立った大型スーパーでの啓発運動や町内会役員で未加入者への個別訪問などしているが、なかなか町内会加入にはつながらず、最近では防犯灯のお金だけ協力してもらう形で、町内会と関わりを持つ人も多くなっている。万が一災害が発生した時には 2 千数百人の市役所職員だけでは見守りや要援護者の確認は不可能な話で、地域のコミュニティが必要である。東日本大震災や熊本地震を考えて地域のつながりが大事だという意識が醸成されれば、加入率も徐々に向上していくものと期待している。</p>

問：音別地区は残念ながら人口 2,000 人を割ったが、原因として釧路地区への流出が止まらない状況にある。対策として雇用の場の確保等あるが、若い母親のアルバイト先や内職などを確保することが大事。まち・ひと・しごと創生総合戦略の中でも、音別地区に該当する項目を具体的に策定し実施されることを強く望むがどうか。

松永(征)：人口減少対策とりわけ若い母親の就労対策だが、どう仕事をつくり若い人の働き場をどう創造するか大変難しい問題である。音別地区は保育所、幼稚園、特別養護老人ホームなど施設も充実しているので、それらを活用し働く場をつくることや、キクイモや富貴紙の生産規模を拡大し雇用を生み出すことも考えられるが、もう少し時間がかかるものと思う。国でも働き方改革などいろいろ議論をしているので、長い目でみてほしい。

問：教育の関係で児童生徒が釧路地区へ流出することもある。音別地区には立派な小学校、中学校もあり、学力も問題ないと聞いているが、さらなる人口流出対策として学力向上の対策をどう考えるか。

松尾：音別地区に特化した学力の数値はわからないが、委員会議論の中でも、いざ就職となった時に知識がついていないと中小企業から聞いているという話が出ていた。学校、家庭、地域、教育委員会や教育大学などが連携し、少しずつ教育問題の解決に向けて進めている。今後も議会で議論していきたい。

問：音別地区から釧路に向かう新道の釧路西インターチェンジ前で信号機に右折の矢印がなく、日曜日では混み合い 1 回の信号で 3 台程度しか進めない。右矢印を付けてほしいがどこに話をするとういかわからないので教えてほしい。

秋田：信号機の設置は、市であれば市民生活課に陳情書でも結構なので提出いただきたい。なお信号の設置は北海道の所管で、事故の状況などで優先順位が決まると聞いており、最近は計上されにくいようだ。

問：釧路サイクリング協会主催の全道大会が来年の9月2～3日釧路大漁どんぱくに合せて開催される予定。300人規模の大会で、今後関係者が市や警察に協力のお願いに行くものと思うが、スムーズに開催できるようご協力願いたい。現在、サイクリングが台湾等の観光客より評価され、北海道の魅力の一つになっており、旭川や十勝などで観光コース化されているが、釧路はまだコース化されていない。サイクリングロードのリフレから阿寒地区までは競技用自転車で走るには路面が悪くなっているので、大会に向けて整備してもらいたい。

松尾：いずれコース選定等の話があるものと思われる。湿原マラソンもいいが、帯広のようにマラソン大会などを経済効果の大きい街中で開催できるように話をしていきたい。

意見：釧路市の市有林でも植林から間伐まで一連の作業を行うが、今年は植林後エゾシカ侵入防止柵を予算がないという理由で設置しなかった。北海道には昨年47万頭のエゾシカが生息しており、釧路管内の農林被害も13億8,000万円という非常に大きな金額で、林業はこのうち1億5,000万円程度だが、せっかく植えたカラマツの頭を食べられたり、木皮をむかれたりして、大切な樹木を失うという状態が続いている。来年も植林すると思うがエゾシカの侵入防止柵の設置のための予算計上に賛成をしてほしい。設置が必要だと話していただければ、担当課もやりやすいと思う。市有林は市民全体の山であり、市有林が立派に成長することを祈っている者として、予算が削られることに大変不満を持っている。

松永（征）：エゾシカの個体数は現在47万頭、一時は60万頭を超えていたので若干減少しているが、依然として農作物や林業へのエゾシカ被害は増えている。ご意見をしっかり受け止めてしっかり議会の中で議論していきたい。

<p>議会への 意見・要望</p>	<p>問：本日、議会報告会に来てみて参加者が少なく残念。議会報告会でも発信の仕方を変えて来年どのくらい増やせるか検討してはどうだろうか。人脈を使ったり、チラシの内容を工夫したりなど、いろいろやってみて集まる方法を見つけることが大事と思う。連合町内会に声をかけて、各会長に来てもらうのも良いのでは。また、フェイスブックでの発信がちょっと足りないと思う。上手に発信できれば興味も持ってもらえるのでは。</p> <p>金安：釧路地区のほうは各委員がチラシを配付したりしていたが、音別町は出身議員がいなかったため、周知方法を検討すべきだった。来年は委員会メンバーも変わるが、たくさんの方に出席いただけるよう申し伝えたい。議会報告会について、釧路市議会のフェイスブックでもどんどん発信するようにしていきたい。</p>
	<p>意見：議会で音別地区のことを取り上げることが少ない。各議員にはそれぞれ支持者がいることは了解しているが、この議会報告会以外にも、日頃の個人の議員活動の中で音別町のことを把握していただきたい。</p> <p>畑中：去年の議会報告会で音別地区に訪問する機会をつくっていくとお話しをして、常任委員会ではエミューの工場や富貴紙の関係で視察を行った。阿寒町ではイベントに正副議長に出席の案内がくるので、我々も訪問しやすい面もある。今後も音別地区に訪問する機会を増やせるように努力していきたい。</p>

開催日時	平成 28 年 11 月 18 日（金） 18：00～19：30
開催場所	サンライフ釧路（研修室）
参加人数	6 人
出席議員	<p>畑中優周 副議長</p> <p>山口光信 議員（議会運営委員会委員、総務文教常任委員会委員長）</p> <p>河合初恵 議員（経済建設常任委員会委員、議会広報特別委員会委員：司会）</p> <p>工藤正志 議員（民生福祉常任委員会委員）</p> <p>松永俊雄 議員（石炭対策・関連エネルギー調査特別委員会副委員長）</p> <p>村上和繁 議員（都心部市街地整備特別委員会委員）</p>
質疑応答の内容	<p>問：火力発電所の誘致について、最近話題にならないが市としては賛成しているのか。</p> <p>松永（俊）：釧路に炭鉱を残していく上では大事な課題であるという立場で後押ししている。今、釧路では、年間 50 万トンの石炭を掘っており、このうち約半分を兵庫県の高砂にある火力発電所に送っている。その輸送に係る運賃はコールマインが負担しており、約 25 万トンを釧路で燃やして発電ができるということになれば、経済的な負担も減り、将来的に石炭を掘っていくという道が切り開けてくるのではないかという立場から応援している。環境の問題については色々と意見があるので議論していきたい。</p> <p>問：石炭は年間で 50 万トン掘っているとのことだが、増えることはないのか。輸入炭の方が安いのではないか。日本には高い技術力があるので、火力発電所を作るのであれば、環境に配慮してほしい。</p> <p>松永（俊）：国の計画でも約 3 割が石炭火力になっており、原発に頼らないエネルギーというのが国民の大きな世論になっている。石炭は市にとって大事な産業である。太平洋炭鉱が閉山してからは経費等の課題もあり、コールマインの長期計画で今の</p>

水準を維持していくとしている。今は、国産の石炭は海外の石炭と値段も同じくらいである。環境の問題については、できるだけ二酸化炭素を出さないような火力発電所とするよう議会としても議論していく。

問：市立病院の新棟を建設するとのことだが、建物の中は古いと感じない。最新の医療設備が入らないなどの事情はあると思うが、病院を新しくする前に医師を確保してほしい。医師不足により出張医が対応している状況で今後が心配である。命を預かる病院であるので、医師を充実させてほしい。

工藤：設備の老朽化や透析するスペースが狭いなどの課題がある。医師の確保については、9月議会でも議論し、市立病院には約70人の医師がいるが、約半分の医師は他の地域から来ており入れ替わりが多い。釧路市で働いてもらえる環境の整備など議論しているところであり、今後も市民の皆さまのご意見を聞きながら取り組んでいきたい。

問：優秀であるのにお金がなくて医師を目指せないという人もいる。医師として何年かは釧路で働くことを条件に資金を援助する制度が必要だと思う。そうすることで優秀な医師が地元に残るのではないか。お金がかかる問題だと思うが必要なところにお金を使ってほしい。

工藤：研修医で来た医師が釧路で結婚して釧路に根付いてもらうためにはどうしたら良いかなどの議論を議会でしている。給付型の奨学金で、卒業してからは釧路に帰って来てもらえるような制度を作ってはどうかということも議会で議論しており、今後も提案や議論をしていきたい。

問：若者が北大通にお店を出しても長く続かない。若者を育てるためには、そこに足を運ばなければならないと思う。コミュニティカフェ「くるる」でお弁当を買ったりしているが、そういった支援を市民がもう少しすることで、若者が残ってくれるのではないかと思うので、行政も力を貸してあげてほしい。

<p>河合：今年度、中心市街地で事業をする場合の補助を20万円から50万円に拡充した。金融機関でも、借り入れする際、新規事業者に限り3年は無利子にするなどの制度がある。市民の協力を得ながら市全体で若者の事業を支援していきたい。</p>
<p>問：公園の照明灯をLEDにするには約5,000万円の設備投資がかかり、電気料は年間約1,000万円削減されるとのことで、設備投資の5,000万円は5年間で元がとれる計算になるので、それであれば早く公園内にLEDの電灯を設置すべきだと思う。</p> <p>河合：市内の公園2カ所で照明灯をLEDにした場合の実証実験をしているところであり、その経過を見て設置に向け取り組んでいく方向で進んでいる。</p>
<p>問：阿寒湖畔にカジノを誘致する話が出ているが、阿寒湖畔には大自然を満喫する人が来ているのに、カジノは目的が違うのでどうかと思う。</p> <p>河合：釧路市統合型リゾート（IR）可能性調査・検討結果の報告書が今年の5月に出されている。報告書でIRは富裕層を対象にしており、長期滞在型の高級リゾートをイメージしている。カジノの施設はホテルの中に併設する形を想定している。治安の心配等もあり、委員会の中でも議論しているが、国の方針として法案ができていないので議論が進んでいない。国立公園の管理の見直しや自然保護への配慮も必要である。国の動向をしっかりと注視していきたい。</p>
<p>問：なぜ、阿寒湖畔にカジノを誘致するのか。市に経済効果があるのか。</p> <p>畑中：IRの誘致については、まだ国会で法案が通っていない状況で、法案が通ったとしたら全国で3カ所にモデル的に設置されて、地方都市に設置されるのは5年～10年先になる。IRは統合型リゾートのことであり、カジノはその中の1つであるの</p>

	<p>で、カジノを誘致するという事ではないことをご理解いただきたい。今後、海外からの多様な旅行客を迎えるにはどうしたら良いか、また、どういったツールが必要なのかという議論をしている。</p> <p>松永(俊)：阿寒の観光はアイヌ文化など貴重な自然を大事にしていて、歩きながら自然を満喫するというものもある。色々な意見があって議会の中でも議論しているところである。</p> <p>河合：今後、委員会の中で議論を深めていきたい。</p>
<p>議会への 意見・要望</p>	<p>問：高齢者の交通事故が増えている。免許証の返納制度があるが、釧路では返納してしまうと病院へ行くにも買い物へ行くにも困る状況である。免許証を返納しても生活に差し支えないようバス券の援助やタクシーなどの助成制度があれば良いと思う。</p> <p>工藤：免許証を返納された方が交通手段に困らないよう、今後、委員会の中で検討するよう要望していきたい。</p> <p>意見：市議会ホームページで政務活動費の使用状況等の報告を見たが、きちんとしていて良いと思う。政務活動費の交付時期が事前であるが、事後に使った分を請求するようにすべきでないか。</p> <p>意見：今日の議員の参加は同一の会派が重複している。議会報告会は7カ所で開催しているが、参加議員は各委員会から選ばれているという考えで良いのか。</p> <p>河合：各個人の議員活動などもあって、当初予定していたメンバーと変わり、結果的に同一の会派が重複してしまった。ご指摘の点を踏まえ検討していきたい。</p> <p>要望：議会報告会は月曜日から金曜日まで各地で開催しているが、幅広い世代の方の意見を聞き、また議会の実情を知ってもらいたいということであれば、働いている人もいるので、2週間くらいの間で土日も含めて開催するなど考慮してほしい。</p> <p>河合：色々な世代の方に集まってもらえるよう検討し、皆さんが一番足を運びやすいところはどこなのかも検討しながら行っている。子育て世代のお母様たちは、午後よりも午前の方が良い</p>

	<p>のではないかとということで、今年は日中にキッズスペースのある「ふらっと」で行った。多くの世代の意見を聞くため、来年度に向け検討していきたい。</p>
	<p>問：意見の募集をFAXかメールにすると、誰が出したか分かる。素直な意見を聞くのであれば、匿名でやるので返信用の受取人払いの封筒をつけてやっても良いのではないか。</p> <p>河合：ご意見として受けたい。</p>
<p>市への 意見・要望</p>	<p>要望：図書館ができるのは、北大通に人が集まるので良いと思う。釧路町の馬券場付近は、重賞レースがあるときには通るのが大変なくらい混雑する。北大通も何かにぎわうような施設の誘致を考えてほしい。</p> <p>村上：北大通をはじめとする都心部の活性化については、都心部市街地整備特別委員会を設置して、議会としても議論を進めている。貴重なご意見として行政に伝えたい。</p> <p>意見：鉄道高架化の話が出ているが、釧路駅は帯広駅に比べると寂しい。釧網本線と花咲線の維持が困難であるとの報道もあるが、立派な駅を作っても鉄道が来なければ何にもならない。</p> <p>村上：駅周辺の整備ということで有識者の委員会があり、その中間報告では、鉄道高架化が良いのではないかとのことだった。その中には鉄道事業が今後北海道全体でどうなっていくかが重要な要因であり、それをしっかり踏まえた上でという但し書きが入っている。各議員も鉄路の問題は重要な課題だと認識している。</p> <p>意見：先日市役所で爆弾騒ぎがあったが、その時に職員は市民を誘導できていなかった。何か起こった時にはデパートなどでは隠語がある。市役所でも庁内放送などで非常事態だということを職員がわかれば、率先して市民を誘導することができるのではないか。</p> <p>山口：何かあった際には市の職員がしっかりと対応できなければ市民は不安になる。大型のテナント等も含め、こういった対応</p>

	<p>をしているのかを調べて、対応できるよう要望していきたい。</p>
	<p>要望：中学校の制服は靴から靴下まで全て学校指定になっており、生活保護世帯は揃えるのが大変である。お金がかかるので部活もできないという人や替え用のTシャツも買えない人もいる。指定の物を着ていないとそれが原因でいじめになることもある。学校指定の物は高価であり、そういった高価な物で揃える必要が義務教育になぜあるのか。部活にも入れないという人がいることも含めて考えていただきたい。</p> <p>山口：学校の制服の助成は所得の低い方に対して一定の基準を設けてしている。ご意見について、こういった形で対応できるか要望していきたい。</p>
	<p>意見：新図書館の駐車場は、図書館と道銀の利用者が利用することになると思うが、今後、中心市街地の活性化ということで北大通に人が集まるようになれば、駐車場が足りなくなるのではないか。遊学館の駐車場は、近隣施設の利用者も駐車している状況であり、新図書館の駐車場もそういった使われ方をすると、図書館や銀行の利用者が駐車できない状況になり、人が集まったとしても苦言が出るのではないかと思う。錦町駐車場のよう、誰でも使える駐車場を増やしていった方が良いのではないかと思う。</p> <p>山口：新図書館の駐車場は、道銀の駐車場に約40台、別な場所に約70台確保する予定である。駐車場の管理体制については、貴重な意見として市に伝えていきたい。</p>
	<p>意見：緑ヶ岡公園は、整備されて年齢問わず幅広く集まれる場所となり、とても良い環境だと思う。緑ヶ岡公園の周辺にある散策路は、さまざまな人が利用しており、健康維持のために歩いている高齢者も多い。冬は雪が積もると歩くことができなくなるので、冬も歩けるよう除雪をしてほしい。</p> <p>河合：委員会の中で担当課にしっかりと伝えていきたい。</p>